

オフィスから紙がなくなる日 ～ Document Cloud でペーパーレス化を推進



オフィスのペーパーレス化が叫ばれてから久しくなりますが、一部の先進的な企業を除いては、今だに業務で多くの紙が使われています。ペーパーレス化は今やエコやコスト削減の目的にとどまらず、業務の効率化という観点でどの企業にとっても重要な課題の1つとなっています。ではなぜ、なかなかオフィスから紙がなくなるのでしょうか。紙をなくす手段のひとつとして、まず紙にかわるものを正しく選択する事が重要です。紙の利便性は残しつつ、それよりもさらに便利に使えるもの。それが、「電子の紙」PDFです。この記事では、最高品質のPDFソリューション、Adobe Document Cloudがペーパーレス化にどのように貢献するかを、業務での活用例を交えながらご紹介します。

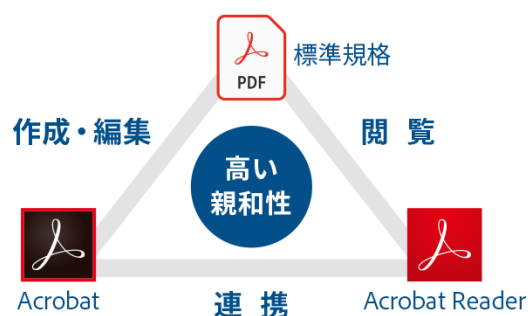
PDFはどれも同じではない？

今やPDFは、見ない日はないと言っていいくらい、どのビジネスにおいても日常的に使われています。ただ、紙にも「良い紙」「悪い紙」があるように、PDFにも高品質なものそうでないものがあります。その違いは、PDFの作り方にあります。

PDFは仕様が100%公開されたオープンフォーマットのため、様々なメーカーのツールを使って作成することができます。しかし、その品質はマチマチで、中には文字が化けたり、レイアウトが崩れたり、画像がきちんと表示されないといったこともあります。そもそもPDFは、作成元の文書をどんな環境でも忠実に再現できるというメリットから、これまで世界中に普及されてきたわけです。これでは、PDFにする意味がありません。

最高品質のPDFを作成するには

さて、PDFの歴史は古く、1990年代の初頭にアドビによって開発され、ソフトウェア、ハードウェア、オペレーティングシステムに関係なく、文書を確実に表示および交換するために使用されるファイル形式として、1993年に初めて登場しました。その後、PDF作成ソフトのAcrobatがリリース、続けてPDF閲覧ソフトのAcrobat Readerが無償で配布されたのを機に、PDFはまたたく間に世界中に広まりました。それから25年以上が経過し、PDFは今もなお進化を続けています。2008年には電子文書交換の国際標準規格 (ISO32000) にも認定されました。



PDF、Acrobat、Acrobat Reader、これらはアドビが開発し、共に進化を遂げてきました。その親和性は高く、これら
を組み合わせることで、信頼性の高い最高品質のPDFを作成し、どんなデバイスやOSでも正確に表示することができ
ます。全世界に普及しているAdobe Readerでの閲覧が保証されているのは、Acrobatをはじめとするアドビ製品で作
成したPDFだけです。

PDFは活用しなければ損

PDFをただ見るだけに使うのであれば、紙の利便性を超えることはできません。PDFは活用することで価値が出るの
です。それを可能にするのが、Acrobatです。

紙でできることは、ほとんどAcrobatとPDFでもできます。文字を書き込んだり、線を引いたり、スタンプを押したり、
あるいはページの一部分を切り取ったり、複数の文書を束ねたりすることもできます。でもそれだけではありません。
Acrobatの様々な機能を使うことで、紙にはできない、デジタルならではのたくさんのメリットを得ることができるの
です。

それでは、実際の仕事でAcrobatとPDFがどのように役立つのか、「保管」と「承認」の2つのシーンを例にあげてご紹
介しましょう。

キャビネットから大量の紙が消える

キャビネットを開けると、中には大量の紙の書類が…。オフィスではよく見かける情景ですね。その中から必要な
書類を見つけ出すのに、いったいどのくらいの時間を費やすことでしょう。

Acrobatの検索機能なら、開いているPDF内のテキストをすばやく検索して表示するだけでなく、指定した場所にある
全てのPDFを検索し、該当する語句が含まれるPDFを表示します。これで、書類を探す手間がなくなり、その時間を本
来の仕事にあてることが出来ます。

では、既存の紙の書類はどうしましょう。それなら、紙の書類をスキャナーで読み込んでPDFに変換します。その際
に、OCR（テキスト認識）をすることで、同じように検索が可能になります。書類が傾いてしまっても、Acrobatが自動
でまっすぐに補正してくれます。

スキャナーがどこにでもあるとは限りません。そんな時は、Adobe Scan（モバイルアプリ<無償>）が便利です。ス
martフォンのカメラで紙の書類を写真で撮ると、OCRとゆがみ補正を自動的に実行しながらPDFを作成します。作成
したPDFをAcrobatで開けば、検索や編集も可能になり、他のPDFと一緒に管理することができます。



紙をPDF化することで、書類探しの無駄な時間を節約できるだけでなく、保管スペースなどのコスト削減にもつながり
ます。また、PDFにパスワードなどのセキュリティを付与すれば、保管の安全性も高まります。

紙なし、待ち時間なしの承認フロー

オフィスのペーパーレス化を妨げる最大の要因が、承認フローです。承認には印鑑や手書きのサインが当たり前とされており、今でもまだ多くの会社で紙が使われています。紙で回す承認フローの場合、複数の承認者が同じ時間に同じ場所にいればスムーズに事が進みますが、それぞれが離れた場所にいたり、在宅勤務だったり、出張中だったりすると、どこかで書類が止まってしまい、決済をとるまでに何週間もかかってしまいます。しかも、どこで止まっているかを確認することも困難です。

Acrobatの電子サイン機能 (Adobe Sign) を使ってみましょう。発議者が承認用の文書をクラウドに上げて、承認者に署名依頼のメールを送ります。承認者はメールに記載されたリンクから文書にアクセスし、電子的な署名を行います。署名が終わると自動的に次の承認者にメールが送られ、最後の署名が終わると議案者のもとに完了のメールが届きます。途中、文書が誰のところにあるかをリアルタイムで確認でき、そこで長く止まっている場合はリマインダーを送ることもできます。



このように、PCやモバイルデバイスがあればどこにいてもその場で署名ができるため、承認フローをわずか数日あるいは数時間に短縮させることも可能です。承認済みの文書はクラウド上で安全に保管され、必要な時にダウンロードできます。

アドビの電子サインは多くの国々の法令やセキュリティ基準に準拠しているため、契約書のやり取りなどにも活用できます。この場合でも、特定のソフトを必要とせず、webブラウザ上で簡単に署名ができるため、相手に負担をかけることはありません。



いかがでしたか。ここで取り上げた例は、AcrobatやAdobe Sign、Adobe Scanといったアプリを含むAdobe Document Cloudサブスクリプションサービスを利用することで、明日からでも容易にペーパーレスを始めることができます。ペーパーレス化がなかなか進まない…、そんな方はぜひご検討ください。オフィスから紙がなくなる日も、そう遠くはないかもしれません。



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎 イーストタワー
www.adobe.com/jp

Adobe
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, the Adobe PDF logo, and Reader are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2019 Adobe. All rights reserved.